

第50回オーブントーナメント全日本空手道選手権大会

会場○駒沢オリンピック公園総合運動場 主催○一般社団法人国際空手道連盟 極真会館

壮年40代で黒沼誠3連覇、50代では加藤一博がV！ 男子は重松翔が初優勝！ 浅古麗美リベンジ！



男子無差別決勝は昨年2位の重松翔(極真山下道場)が昨年優勝の芦高侑平(極真関西本部)を再延長の末に下し、初優勝。補足動画は<https://karate7.com>



女子無差別決勝、浅古麗美(埼玉木村道場)が昨年決勝で負けた福徳萌花(極真紅衛会道場)に旗判定5-0。「世界大会に向けて、外人に打ち負けない地力を養いたい」



男子無差別3位決定戦は片桐大也(淑徳巣鴨中学高等学校空手部)が水野に本戦0-2、延長戦4-1と競り勝つ。



男子無差別準決勝、芦高が磨きぬいたラッシュで水野翔太(KWF極真)を本戦で退ける。



女子無差別準決勝、福徳萌花(姉)が金城杏奈(極真沖縄県支部)の上段蹴りを封じ、本戦5-0。



女子無差別3位決定戦は妹の福徳結実(極真紅衛会道場)が金城に本戦1-0、延長3-0。



壮年男子A無差別準決勝、早田が小松弘明(極真佐藤道場)に本戦5-0。

I 一般男子無差別級

本命は昨年優勝の芦高侑平(極真関西本部)。

「今年から看護学校の実習が始まり、空手との両立が課題」とは言うものの、磨き上げたラッシュの力は随一。

準決勝でも水野翔太(KWF極真)に残り40秒からラッシュを仕掛け、旗判定4-0。安定感溢れる組手で今年も決勝へと進出した。

決勝の相手は昨年と同じ、重松翔(極真山下道場)。準決勝では片桐大也(淑徳巣鴨中学高等学校空手部)を逃がさず追い詰め、本戦5-0で勝利している。

決勝戦を戦う二人の対戦成績は芦高4勝、重松1勝。

「勝ちパターン(ラッシュ)の前に攻略したい」という重松が上段蹴りや跳び後ろ蹴りを繰り返す。それを芦高が柔らかく受け流し、プレッシャーをかけていく。

終盤に芦高がラッシュを仕掛けようとする前に重松が顔面段打で注意1。旗判定0-0となり、延長戦へ。

延長戦(2分)は序盤から重松が下段蹴り、後ろ蹴りで再び芦高攻略を狙うが、再び顔面段打で注意1。芦高の





壮年男子B無差別決勝、加藤一博（極真加藤道場）が体重18キ口差の田福雄市（極真沖縄県支部）に本戦5-0。



壮年男子A無差別3位決定戦、平田裕紀（極真会館力謝会）が小松に本戦5-0。



壮年男子A無差別決勝、黒沼誠（極真田畑道場）が初参戦の早田信（極真早田道場）に本戦5-0。



壮年女子A無差別（35～44歳）決勝、三ヶ島ゆか（極真空手礼心会）が膝とインローで笹井陽子（極真田中道場）に本戦3-0。



壮年男子B無差別3位決定戦、伊藤龍吾（士衛塾）が今井に本戦5-0。



壮年男子B無差別準決勝、田福が今井善雄（極真今井道場）に本戦5-0。



主催者および来賓の皆さん。右から5番目が塩崎恭久大会会長（前厚生労働大臣）。7番目が松沢成文大会副会長（参議院議員）。



壮年女子B無差別（45歳以上）決勝、長野政子（世界全極真志優会はるひ野道場）が尾原さな江（極真佐藤道場）を攻め続け、本戦5-0。

様々な大会の王者が集結し、レベルの高さが際立った女子無差別。本命はJFKOでも優勝した浅古麗美（埼玉木村道場）。準々決勝で極真連合杯世界大会優勝の小野愛理（極真広尾道場）を旗判定3-0で下すと、準決勝で「足を使っ
て浅古選手の圧力に対抗しようとした」という福徳結実（極真紅衛会道場）

II 一般女子無差別級

ここで重松の真の狙いが明らかになる。「実は再延長まで戦うつもりでいた。本戦からダメージを蓄積させ、再延長でのラッシュの力を封じ込めよう」と考えていた重松。左右の蹴りを下段に集め、芦高を削っていく。疲れが見える芦高も残り30秒からラッシュを繰り返すが、いつもの10%程度の圧力しかなく、旗判定は5-0で重松が初優勝を成し遂げた。

道着が真っ赤に染まり、流れが途切れる。ダメージが心配されたが、ここが勝負どころと見た芦高がラッシュで重松を後退させる。重松も起死回生の上段膝蹴りを狙うが不発。旗は芦高に2本上がるが、引き分けとなり、再延長戦へ。最後の2分で雌雄を決することとなる。



入賞者および関係者の皆さん。

ら突きと左右の下段蹴りを繰り返していき。

それに対し「浅古選手は3分間しっかりと攻め続けるタイプ。しっかりと打ち負けないことが重要」という福徳も負けじと打ち返すが「後半のギアチェンジについていけなかった」と徐々に浅古の回転が福徳のそれを上回り、旗判定5-0。ジュニアから続くライバル対決は、1勝1敗となった（一般のみの成績）。

III 壮年男子A無差別級（40歳代）

黒沼誠（極真田畑道場）の3連覇を誰が阻止するのか？

それがこの階級の出場者の目標であったが「田畑繁師範に言われた通り、やっではいけないことをやらず、秘密の作戦を活かすためのフィジカルとメンタルを一年間磨いてきた」という黒沼が突きからの膝蹴りで勝ち上がっていく。

準決勝でも平田裕紀（極真会館力謝会）を本戦3-0で下し、今年も決勝へとたどり着いた。

決勝の相手は、早田信（極真早田道場）。今年初出場の早田は威力のある突き・蹴りを武器に準決勝では小松弘明（極真佐藤道場）に本戦5-0。

打倒黒沼が期待された。

決勝は開始早々、黒沼が突きからの膝で圧力をかけていく。

早田も黒沼の圧力をいなしながら、右下段蹴り、左の突きを返すが「膝を警戒して両腕を下げられなかった」と言う通り、黒沼のリズムを崩せず、本戦5-0で黒沼の3連覇が決まった。

IV 壮年男子B無差別級（50歳代）

台風の日となったのが、昨年の壮年男子A無差別（40歳代）2位の加藤一博（極真加藤道場）。準決勝で昨年優勝の伊藤龍吾（士衛塾）と対戦。体重18キロ差をもとせせず、打ち合い本戦5-0。

決勝でも昨年2位の今井善雄（極真今井道場）を下した田福雄市（極真沖縄県支部）の軸足を刈って転倒させ、中盤は強弱をつけた突きで攻め続ける。

対する田福も左の前蹴り、左右の下段蹴りで活路を見出そうとするが、ラスト15秒からのラッシュで押し戻され、5-0で加藤が勝利。試合後「空手歴25年、週3〜4回の稽古。壮年男子無差別Aで一回優勝し、今回で2回目の優勝。来年も出場し、連覇を狙う」と語った。

RESULT

- 一般男子無差別級 ①重松翔（極真山下道場）②芦高侑平（極真関西本部）③片桐大也（淑徳巣鴨中学高等学校空手部）④水野翔太（KWF極真）
- 一般女子無差別級 ①浅古麗美（埼玉木村道場）②福徳萌花（極真紅衛会道場）③福徳結実（極真紅衛会道場）④金城杏奈（極真沖縄県支部）
- 壮年男子A無差別級 ①黒沼誠（極真田畑道場）②早田信（極真早田道場）③平田裕紀（極真会館力謝会）④小松弘明（極真佐藤道場）
- 壮年男子B無差別級 ①加藤一博（極真加藤道場）②田福雄市（極真沖縄県支部）③伊藤龍吾（士衛塾）④今井善雄（極真今井道場）
- 壮年女子A無差別級 ①三ヶ島ゆか（極真空手礼心會）②笹井陽子（極真田中道場）③鹿内茜（極真鹿内道場）
- 壮年女子B無差別級 ①長野政子（世界全極真志優会はるひ野道場）②尾原さな江（極真佐藤道場）③神田徳子（世界全極真長谷川道場）